

# 丹後織物

号外

2020. 10. 21

発行所 丹後織物工業組合 京都府京丹後市大宮町河辺 3188 TEL 0772-68-5211 FAX 0772-68-5300

<https://tanko.or.jp/tte/>

## 第71回丹後織物求評会 開幕

### 経済産業大臣賞

第1部 後染織物

『ぼかしサヤ』

羽賀織物 (与謝野町)

次代へ  
新たな  
挑戦。

2020 Tango-Chirimen 300 year anniversary  
2020 丹後ちりめん創業300年

### 入賞作品決定!!

丹後ちりめん創業300年を迎えた本年、第71回丹後織物求評会を10月20日(火)~22日(木)の3日間に亘り、丹後織物工業組合特設会場にて開催。初日の20日(火)には、組合員機業35業者から出品された186点の作品について審査会が行われた。

審査会では野瀬 兼治郎氏(京都織物卸商業組合 理事長)を審査委員長に、総勢12名の審査員によって「後染織物」「先染織物」の各部門に分かれて織技術、市場性、意匠面など細目に亘り厳格な審査が行われた結果、栄えある経済産業大臣賞に後染織物部門(和装着尺・洋装地)から「ぼかしサヤ」(羽賀織物)が選出された。このほか、中小企業庁長官賞に「丹後織 御召 単衣 七宝市松」(株式会社ワタマサ)、経済産業省製造産業局長賞に「紋意匠 13m オパール縫取」(吉村機業株式会社)と「意匠と6越ウズラ①」(株式会社一色テキスタイル)、また農林水産省生産局長賞には「薔薇」(江原産業株式会社)、近畿経済産業局長賞に「紹ちりめん」(安田織物株式会社)など11賞13点の入賞作品を選出した。(入賞作品および審査総評は裏面のとおり)

今年は、10月21日(水)~11月1日(日)の12日間に亘り「丹後ちりめん創業300年 SILK WEEKS IN TANGO | TANGO TEXTILE EXHIBITION」と題し、丹後織物求評会、一般公開展示も含めた展示会を丹後ちりめん創業300年事業実行委員会と丹後織物工業組合主催にて開催。展示会では、組合員機業41業者から出品された274点(求評会出品作品を含む)の作品を公開する。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、10月21日はパネルディスカッションの生配信、21・22日にオンライン商談会を実施するとともに後日、会場の様子をYouTubeにて公開する。

また会期中、投票による特別審査も実施。第3部「男のきもの」部門について、求評会審査員及び展示会の来場者の投票だけでなく、今回はオンラインでの投票も加え入賞作品を選出する。また後染・先染部門の商品についても、300年を記念し展示会の来場者、オンラインによる投票によって入賞作品を選出する。投票結果については、展示会終了後にホームページにて発表する。

# 入賞作品

※第1部・・・後染織物 第2部・・・先染織物

経済産業大臣賞	第1部	ぼかしサヤ	羽賀織物
中小企業庁長官賞	第2部	丹後織 御召 単衣 七宝市松	(株)ワタマサ
経済産業省製造産業局長賞	第1部	紋意匠13mオパール縫取	吉村機業(株)
〃	第1部	意匠と6越ウズラ①	(株)一色テキスタイル
農林水産省生産局長賞	第2部	薔薇	江原産業(株)
近畿経済産業局長賞	第1部	紹ちりめん	安田織物(株)
京都府知事賞	第1部	木賊ちぢみ 角通し丸に菱	田勇機業(株)
〃	第1部	縫取半衿レース	(株)糸利
全日本きもの振興会会長賞	第1部	潮騒鼠	織元金重
京都織物卸商業組合理事長賞	第1部	ボカシ市松	(有)丸栄織物工場
日本絹人織織物工業組合連合会理事長賞	第2部	TAMIYA RADEN × ARLNATA COLLABORATION OBI	民谷螺鈿(株)
日本絹人織織物工業会会長賞	第1部	童話シリーズ『白雪姫』	(株)吉村商店
織研新聞社賞	第2部	紋紗合せ 振袖	松田織物(有)

## 《審査総評》

第71回と伝統のある丹後織物求評会のご盛会、誠にありがとうございます。今年は丹後ちりめん創業300年を記念し、丹後の地で華々しく開催される事をお喜び申し上げます。

求評会には多数の力作が出品されており、日々、目的の質感や風合いを目指し、ものづくりに励まれている皆様の技術と心意気に改めて敬服致しました。

丹後ちりめんは300年続く伝統を活かしつつも、新しい技法やデザインを取り入れ商品開発や市場開拓の挑戦を続けられ、世界に通用する技術として今なお進化を続けられています。

今回は従来の求評会に加えて、新たな試みとして一般公開期間中に来場者とオンライン投票によって賞を決定する「300年記念織物コンテスト」を実施されると伺っています。

和装業界はコロナウイルスの影響により依然として厳しい状況ではありますが、伝統と革新を繰り返しながら、未来に向けて果敢な挑戦を行う丹後産地のますますの発展を祈念して総評とさせていただきます。